



陶研

2022

常滑 | 愛知

第40期

研修生募集

とこなめ陶の森 陶芸研究所

第40期

研修生募集



ひ
た
む
き
に
、
や
き
も
の
、
常
滑

とこなめ陶の森 陶芸研究所（陶研）と研修制度

陶芸研究所は、「古常滑」に代表される中世以来の伝統と芸術性が、現代陶芸にも活かしていることを広く社会に発信する目的で昭和36年（1961）に開所しました。
その後、昭和58年（1983）から研修生への技術指導を開始し、これまでに168名の研修生が巣立ちました。

建学の精神

常滑の陶業陶芸振興へ多大な功績を残し、陶研の設立に尽力された故伊奈長三郎氏は、「陶業の振興は、陶芸の土台になる。陶芸における美と技の目的は、陶業につながる。」（『巧と業の協奏 INAXと常滑焼のあゆみ』より）と述べており、陶研の建学の精神となっています。

常滑陶業界の偉人、伊奈長三郎

伊奈製陶株式会社（後の株式会社INAX、現株式会社LIXIL）の創業者で、初代常滑市長も務めた常滑市名誉市民です。陶管やタイル、衛生陶器などの建築用陶器の一貫生産体制の確立など、常滑陶業界に多大な功績を残しました。さらに、陶芸研究所の設立資金として、常滑市へ自社株を寄付するなど、常滑の陶芸振興にも貢献されました。



研修制度の目的

やきものづくりを
なりわい
生業とする人材を育てる

基本方針

- 「常滑の“まち”とともに作り手を育てる」
- 「自主性と探求心を持った作り手を育てる」
- 「基礎を身に付け、プロセスを大切に作る作り手を育てる」

陶芸研究所職員からのメッセージ

やきものをゼロからはじめる方でも、密度の濃い2年間の研修を通して、自らの意欲次第でやきものづくり手として巣立つことができる、そんな場所でありたい。私たち陶芸研究所の職員はそう考え、研修生を毎年受け入れています。
常滑の地は、約1000年前からやきものをつくり続けている産地であり、先人から脈々と受け継がれた技術や哲学を引き継ぐ作り手が日々、作陶に励んでいます。その技術は、薪窯・大物・急須ロクロなど多様で、それらを研修で学ぶことができます。
常滑でやきものを学ぶにあたり大切なことは、先人が伝える技術や哲学を自らの糧として探求し、自らの作陶人生を切り拓いていくことです。
私たちは、現役の作り手として活躍している講師や産地関係者とともに、あなたの意欲に応えていきたいと考えています。



2年間の研修の流れ

入所前～1年次

※ 研修内容は、変更する場合があります。



土づくり

様々な土と、土づくりの違いによって生まれる土の個性を知ります



手びねり

思い描く形に粘土を積み上げる技術を学びながら、自分らしい表現を模索します



タタラ

粘土を板状にしたタタラを扱う技術を学びます



ロクロ応用

ロクロ基礎からより複雑な形や、より大きなものに挑戦します

入所前

試験

入所

1年次

当施設では、経験がない人も受け入れており、1年次はやきものづくりの基礎を学ぶことを重視し、その経験を通して生業とする意識を高めていきます。

1. 自ら学ぶ姿勢を尊重し、その中での気づきを大切にします。
2. やきものづくりの各プロセスを理解し、基本が身につくまで繰り返し練習します。
3. 素材について理解を深めます。
4. 炎を使った焼成技術をしっかり習得します。

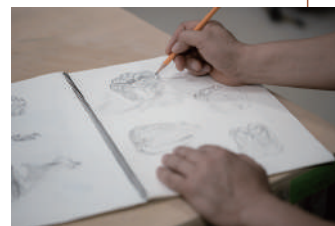
●自由見学

見学は、いつでも受け付けています

●相談窓口

TEL・Mailでの相談も可能です

●住まいの相談



デッサン

観察力を鍛え、自分らしい物の見方や表現を見つけます



ロクロ基礎

電動ロクロを使った粘土の成型技術を学びます



インターンシップ

つくり手の現場や仕事を体験し、自らが活動するための気づきを得ます



装飾（化粧技法）

化粧土を用いた装飾技法を学びます



いこ 鑄込み

泥状の粘土を型に流し込む、鑄込み技法の基礎を学びます



日程・時間

研修日 毎週 火曜日～土曜日（年間約240日）

研修時間 午前8：30～午後5：00（昼休み1時間）

※ 窯焚きで深夜になることもあります。 ※ 研修時間は、変更する場合があります。

陶研の特長

- 講師は現役の職人・作家です。
- 1学年定員5名という少人数制で、個々に合わせて指導します。
- 多種多様な土や原料を使います。
- ガス窯焼成を中心に、窯焚きは自由に行うことができます。また、薪窯（穴窯）による実習も行います。
- 研修や講義のない日曜・祝日も施設を利用できます。

陶研の主な設備

焼成設備

- 薪窯（穴窯） ● ミニ薪窯 ● 電気窯（26.5kw / 12kw×2基 / 7kw）
- ガス窯（1.0㎡ / 0.7㎡ / 0.35㎡）

機械設備

- 施釉ブース ● ポットミル ● ロクロ（15台） ● 土練機（4台）
- スタンパーミル ● フィルタープレス ● ベルダー ● バフ





急須ロクロ

急須産地で常滑独自に発展した、精度の高いロクロによる急須づくりを学びます



情報発信力

作品・作者の紹介方法や、その発信の仕方を学びます



修了制作

修了後の活動につなげるために、各研修生が自主性を持って取り組む研究制作です



中古道具の紹介

産地に眠る空き家・工房・中古道具の情報を、使いたい方へ提供します

2年次

1年次に学んだやきものづくりの基礎を活かし、自主性を持って、進む方向性をより明確にしていきます。

1. 研修生の自主性を尊重し、自由な時間を多く取り入れます。
2. これまでの研修を通して、自ら進む方向性を明確にしていきます。
3. “まち”や“人”とのつながりを研修の中に取り入れ、修了後の活動へ結びつけます。

修了後の支援

修了生に対し、常滑で活動するための様々な支援を行っています。

- 工房家賃を補助(3年間)
- 空き家・工房・中古道具の紹介
- スキルアップ教室、オープン講座の開催
- 研修工房の窯や設備の使用(有料・要予約)



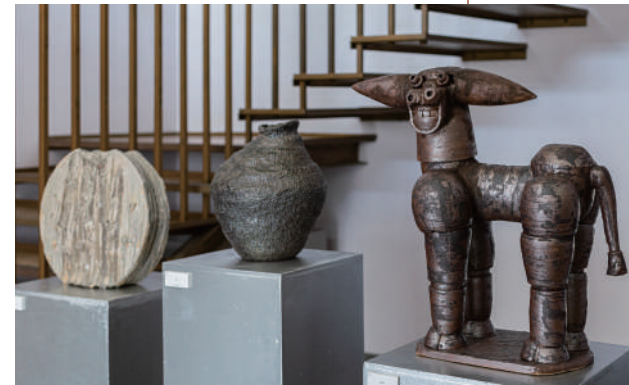
絵付け

絵をほどこすための基本的な技術を学びます



修了展

作品展示を通して、社会に繋がる第一歩となる発表の場です



スキルアップ教室

プロとして活動しているつくり手に向けて、技術向上を目的に開催しています

1年次・2年次 共通項目



探求と表現

各自がやきもので表現したいことを見つけるための授業です



ガス窯・電気窯焼成

それぞれの窯の特徴をつかみ作品にあった焼成技術を学びます

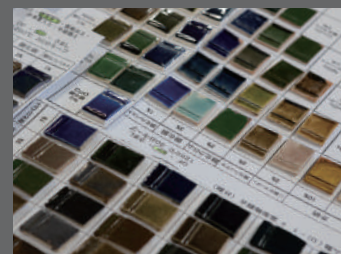


薪窯焼成

1200°Cを越える炎を操る薪窯体験を通して、やきものづくりの原点に触れます



窯の焼成は、自主的に計画をたてられます。



釉薬講義

望む釉薬が作れるように、原料や作り方を学びます



茶華道

やきものを取り巻く文化を学び、使う目線からの気づきを得ます



フィールドワーク

県内外のやきもの工房や関係施設を視察し交流を深めます



イベント参加

市民向けのワークショップなどを体験します

その他、「陶磁史・陶芸概論」や「講演会」、「デモンストレーション」を行います。

修了生の声



“機械的でない時間”が
あったと思います。

第19期生
田鶴浜 優香さん
大分県大分市出身
平成13年度修了

現在、どのようにやきものと関わっていますか？

同業の夫の仕事のサポートが中心となっていますが、手を動かすことができるべく途切れないように年に1回の個展と注文制作は、自分の中の決め事になっています。

陶研修了後から現在に至るまでの間のことを教えてください。

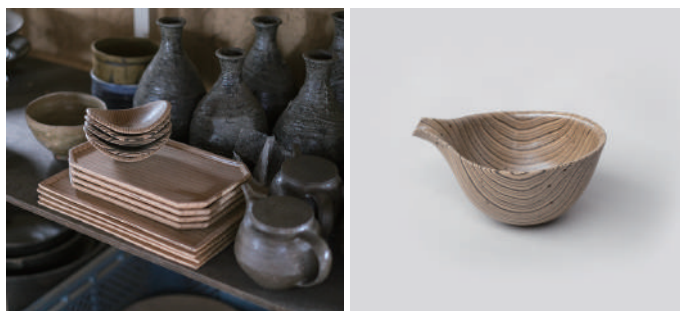
修了後にまず象嵌^{どうがん}の仕事をして、その後独立、築窯。育児なども経て焼き物から完全に手が離れた時期もありました。現在は、夫の仕事に関しては窯から出した後の作業を、自分のものに関しては練り込みに絞って作っています。

陶研に入って良かったと思うことは？

機械的でない時間があったと思います。練り込みしか知らなかった自分にとっては、ロクロ仕事は難しいな…とか、いろんな分野の仕事を見て判断するための材料を蓄えた時間でした。

常滑はあなたにとってどんな“まち”ですか？

根っからの仕事人たちの基盤があると思っています。仕事をして来た結果、技術の感覚が開く。現代とは、逆かもしれませんが、長く仕事をやっていく上で大事なことを背中で見せてくれる方がいっぱい“まち”です。



色々なことを見て
知識を得られる“まち”。

第33期生
山田 勇太郎さん
愛知県常滑市出身
平成28年度修了

現在、どのようにやきものと関わっていますか？

窯元である実家に工房を構えて、急須を主に様々な茶器を制作しています。また必要な際は、植木鉢の職人である父の仕事を手伝う事もあります。

陶研修了後から現在に至るまでの間のことを教えてください。

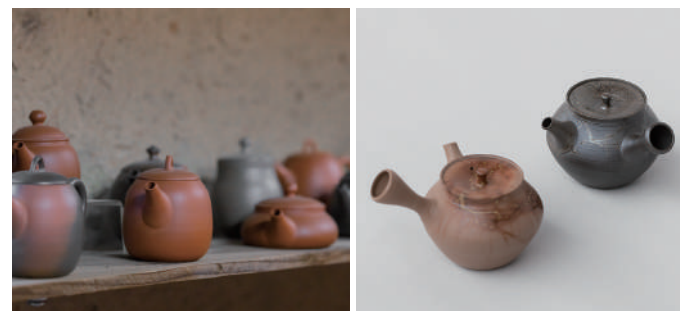
父の仕事を手伝いながら、午後から急須の制作をしていました。いくつかの取引先に納品が決まり、百貨店での催事に参加させて頂いたりもしました。修了一年後に常滑で初個展をし、以降各地の展示やグループ展に参加させて頂いています。

陶研に入って良かったと思うことは？

国内外で活躍されている講師の方々がいるので、様々な技術を習得できました。穴窯を築く機会もあり、その焼成もできたのですごく貴重な経験になりました。あとは、常滑ならではのレベルの高い急須の研修ができたのは本当に良かったです。

常滑はあなたにとってどんな“まち”ですか？

産地であり、様々な作家や職人・窯元がいるので、色々なことを見て知識を得られる“まち”と思います。また、困ったことがあるとたくさんの方が手を貸してくれたり、道具を提供してくれたり、温かい“まち”だなと思います。



一生続けたいのに、
一生成し遂げられ
そうにもない“やきもの”。

第33期生
一ツ松 綾乃さん
愛知県東浦町出身
平成28年度修了

現在、どのようにやきものと関わっていますか？

陶研を修了して3年ですが、やきものだけではまだまだ生活できません。でも手を緩めれば、静かに遠のくと確信しています。なので今は、可能な限り工房に通い、そこで考え、作り(ウロウロして、お菓子も食べながら…)、少しでもやきものに関わり続けられるようにしています。

陶研修了後から現在に至るまでの間のことを教えてください。

守られていた研修期間を修了したと同時に人生の本番が始まったようで、99%の「不安」と1%の「ヤッホー!!」でした。そんな気持ちも過ぎ行く時間に飲まれ、今に至ります。とにかく、運が良くて、好きな事を続けられています。

陶研に入って良かったと思うことは？

技術はもちろん、作ることの楽しみやワクワク、悩み不安、感情までもが入り混じるような、それでもって一生続けたいのに、一生成し遂げられそうにもないやきものを知ってしまったこと…以外は、ほぼ全部良かったです。

常滑はあなたにとってどんな“まち”ですか？

「優しすぎかよっ」て、ぼやきたくなるくらい、困ったとき必ず誰かが助けてくれる。そんな“まち”です。



修了後

多くの修了生が、常滑市内で陶芸作家、職人、製陶所、やきもの販売などやきものに関わり活躍しています。

募集要項

研修期間

2年(令和4年4月～令和6年3月)

募集人数

5名

研修費

月額2万円

※各自購入する道具等は別途実費負担となります。

応募資格

以下の(1)～(4)の全てに該当する人

- (1) 満40歳未満の人(昭和57年4月2日以降に生まれた人)
- (2) 大学・高等学校卒業及び卒業見込みの人
または高等学校卒業と同程度の知識及び技能があると認められる人
- (3) 心身ともに健康で、研修期間を通じ熱意をもって研修に専念できる人
- (4) 研修修了後、引き続き陶業陶芸を仕事として継続する意思のある人

※外国籍の人は、日本語検定4級以上の資格を有していること。

応募受付期間

一次試験受付 令和3年10月1日(金)～11月30日(火)

二次試験受付 令和4年1月12日(水)～1月30日(日)

※一次試験で合格者が定員に達した場合は、二次試験を行いません。
二次試験の有無は、ホームページにてお知らせします。

応募書類

1. 履歴書(市販A4サイズ/6か月以内撮影の顔写真添付)
2. 作文 テーマ:『陶芸研究所で取り組みたいこと』
(800字程度・任意様式)

応募方法

以下の受付場所へ応募書類を持参または郵送

受付場所 〒479-0822 愛知県常滑市奥条7丁目22番地
とこなめ陶の森 陶芸研究所

持参の場合 受付時間 午前9:00～午後5:00
※休館日は毎週月曜日(祝日の場合は翌日)です。

郵送の場合 『特定記録郵便』の扱いにすること
※宛名面に「研修生応募書類在中」と朱書きしてください。

試験日程

一次試験日程 令和3年12月19日(日)

二次試験日程 令和4年2月6日(日)

※一次試験で合格者が定員に達した場合は、二次試験を行いません。

試験内容

●適性検査(60分) ●実技試験(90分) ●面接

試験当日の持ち物

- 受験票(応募受付後、郵送します) ●筆記用具
- タオル2枚、作業着 ●昼食 ●自身の作品写真(ある人のみ)

合格発表

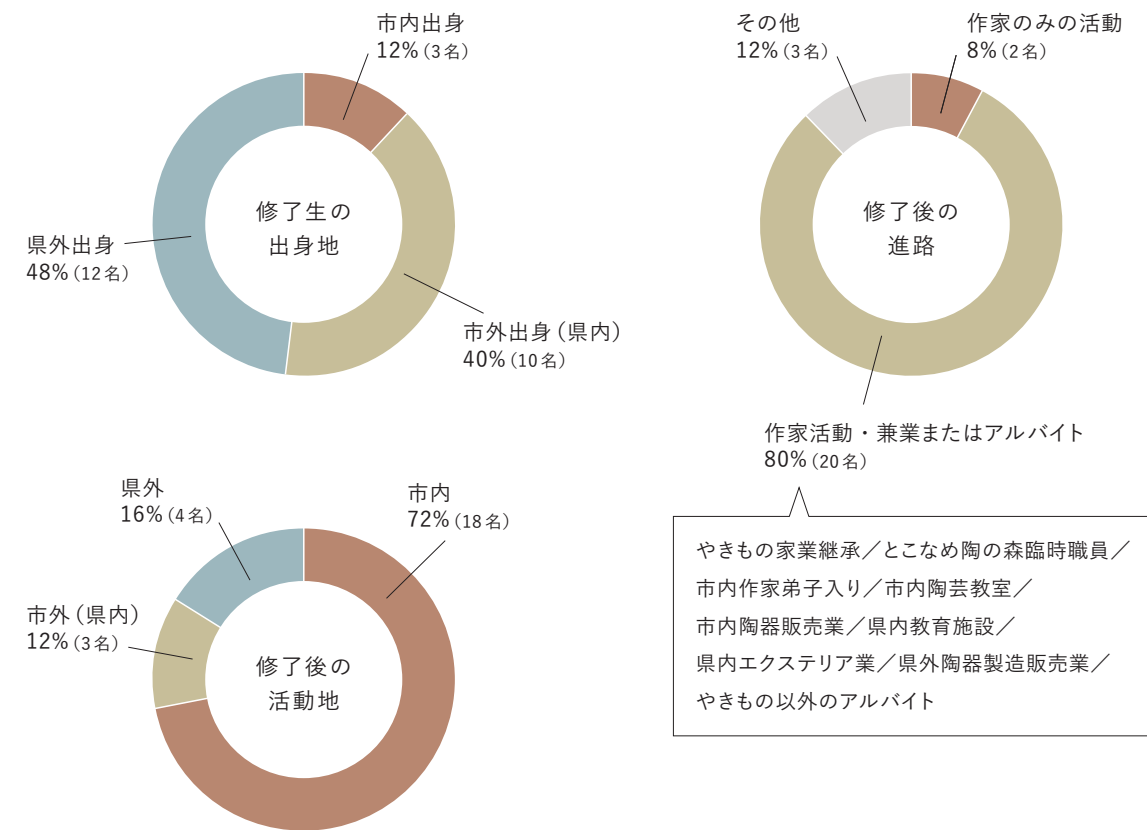
ホームページにて合格者の受験番号を公開したのち、
受験者全員に郵送で結果を通知

<http://www.tokoname-tounomori.jp/>

※ホームページ公開は、試験1週間後の予定です。

※入所手続については、結果とともに合格者に通知します。

過去9年間の修了生25名の動向 (令和3年5月1日現在)



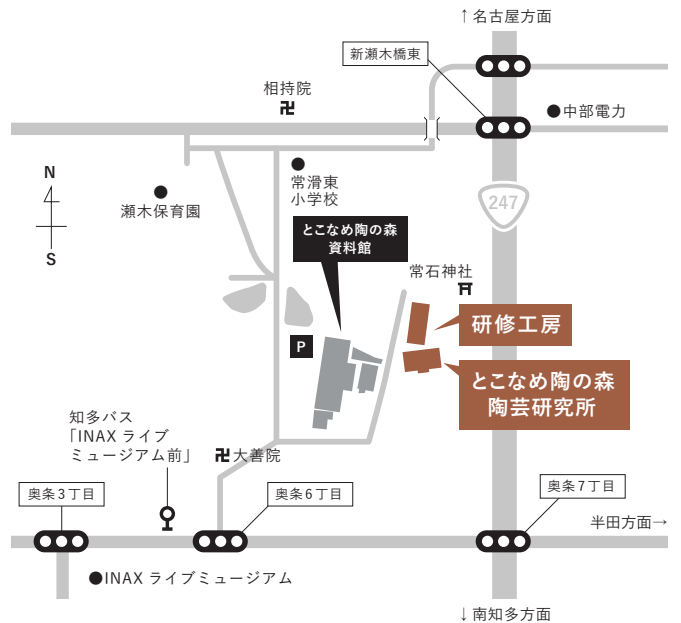
やきもの・海・空のまち、常滑

常滑市は愛知県知多半島のほぼ中央の西側に位置し、伊勢湾に面した人口約6万人のまちです。年間を通じて気候は温暖で、漁業や農業、窯業などの産業を育んできました。やきものの歴史を感じるまちなみと、海上の中部国際空港がまちの独自の景観となっています。



交通アクセス

- 名鉄常滑駅からタクシーで約5分、徒歩約30分
- 名鉄常滑駅から知多半田駅行きバス「INAXライブミュージアム前」下車、徒歩約10分



常滑市役所 環境経済部

とこなめ陶の森 陶芸研究所

お問い合わせ

〒479-0822

愛知県常滑市奥条7丁目22番地

TEL/FAX 0569-35-3970

E-mail tounomori@city.tokoname.lg.jp

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始

施設・研修見学は、いつでも受け付けています



陶芸研究所



研修工房


とこなめ陶の森(資料館・陶芸研究所・研修工房の3施設の総称)は、やきもの文化の創造と発信の地として、陶業・陶芸の研究・研修の拠点として、また常滑焼の振興と伝承の地として一体的に常滑市が運営しています。


お知らせ・最新情報

とこなめ陶の森
ホームページ

とこなめ陶の森 🔍



 とこなめ陶の森

 tokoname.tounomori

動画で見る
とこなめ陶の森
陶芸研究所

 YouTube



〈事業主体〉 常滑市

<http://www.city.tokoname.aichi.jp/>